



2008.6.14

国際競争力強化のための知財戦略 大学の立場から



慶應義塾大学

知的資産センター所長

羽鳥 賢一



SINCE 1998



KEIO 150
Design the Future

国際競争力強化と大学の知財戦略



大学

< 国際競争力のある研究テーマ >

- ・iPS細胞研究テーマ
- ・グローバルCOE研究テーマ
- ・海外機関との広域的な研究テーマ
- ...

< 通常の研究テーマ >

X

大学の知財戦略・産学連携
戦略強化

- 研究テーマに応じて、必要な知財戦略、産学連携戦略が必要
- 限られた人材、資源の有効活用(メリハリ)

大学における知財戦略強化のあり方



<これまでの知財取扱>

- 研究者から発明届けが出ると、それをきっかけに、知財確保、活用が始まるが多かった。
- 研究成果創出後の個別戦略による対応。
- メリット:担当者が少人数でも対応可能。
- デメリット:タイミングが後る倒しになりがち。

メリハリ

<国際競争力の高い研究テーマ>

- iPS細胞関連研究テーマ
- グローバルCOEテーマなど
- 研究の上流から能動的に関与
- 特許マップ作成
- 産学連携・技術移転ポートフォリオ形成
- 知財から見た研究戦略を提言
- 米国仮出願制度活用
- 研究ノート記載相談など研究環境支援

+

<他の技術分野>

- 個別戦略でバランス

大学の基礎研究を発展させるベンチャー



慶應義塾の
ライセンス先

大企業
(22%)

中小企業
(61%)

ベンチャー
(17%)

(参考) MITのライセンス先: 大企業2割、中小4.5割、ベンチャー3.5割

平成12年度 設立	 V-cube Inc. Total Creation Provider 株式会社 ブイキューブ		
平成13年度 設立	 Gene & Brain Science 株式会社 GBS研究所	 SNT 株式会社 エスエヌティ	
平成14年度 設立	 Oxygenix 株式会社 オキシジェニクス		
平成15年度 設立	 Human Metabolome Technologies, Inc. ヒューマン・メタボローム ・テクノロジーズ株式会社	 EcoS Corp. 株式会社 エコスコーポレーション	
平成16年度 設立	 V-cube Inc. Total Creation Provider 株式会社 ブイキューブ プロードコミュニケーション	 PropGene Biotechnology for Health 株式会社 プロップジーン	 SC 株式会社 シグナル・クリエーション

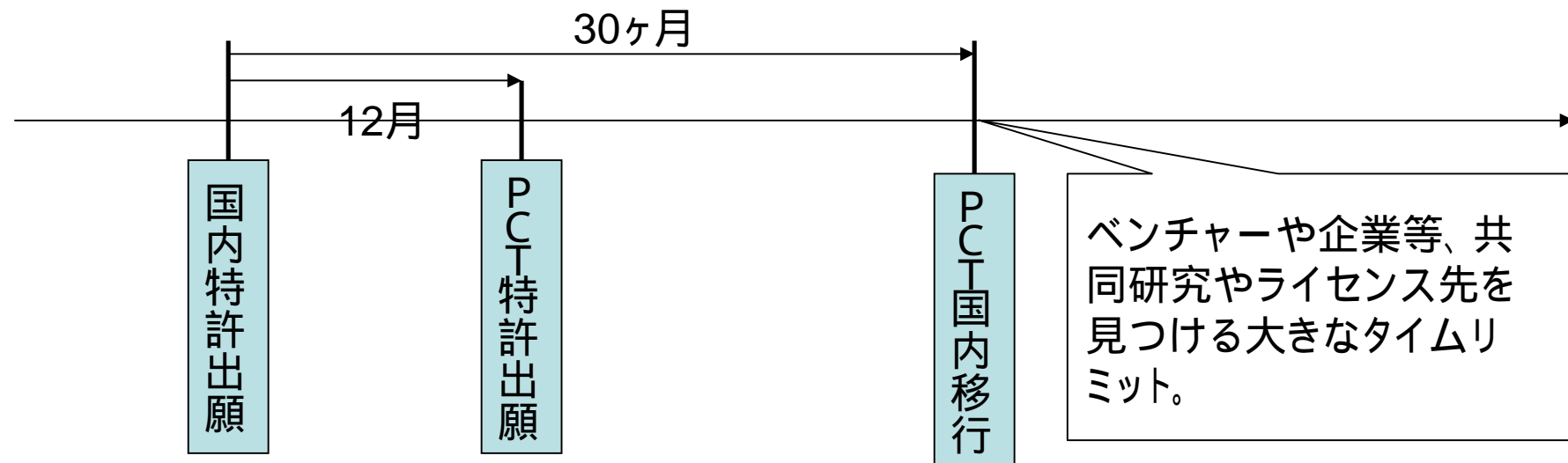
慶應義塾の知財を基に起業したベンチャー群
16社(内、バイオは11社)

平成17年度 設立	 STAC 株式会社 STAC	 K.O. ImmunoTec 株式会社 ケー・オー・イム/テック
	 Glyco Medics 株式会社 グライコメディクス	 Pharmish 株式会社 Pharmish
平成18年度 設立	 Articell Systems 株式会社アーティセル・システムズ	
平成19年度 設立	 Spiber Inc. スパイバー株式会社	

国際競争力強化する上での課題(1)



- < 海外特許出願費用の確保の方策:特にハイリスクな研究成果 >
- 大学は、将来の海外展開が見込まれる成果を海外特許出願。
 - 特にバイオや創薬系では、ワールドワイドの出願が求められる。
 - 特にPCT各国移行時～、多額の費用が発生。
 - なるべく早い段階で企業と連携を期待。しかし、…
 - ハイリスクだが有望な研究成果に、公的資金の支援強化を！



国際競争力強化する上での課題(2)



オープンイノベーションの拡大

- 大中企業の研究部門は、大学からライセンスを受けるくらいなら使わないという事例も…
- 大学の特許に対して、無効審判で攻めて断念させるか、数十万円の対価のみで独占実施を迫るケースも…

国内ベンチャーを元気にする投資環境の改善

- 大学にとって、研究を継続、発展させるベンチャーは極めて大事。
- 日本の企業や投資家に採用されなかった大学の研究成果を、米国のベンチャーは活用していくケースもある現状を踏まえ、国内ベンチャーを元気にする投資環境の改善はできないか。

大学における専門家人材の層を厚くする

- 大学の研究成果の将来の活用の視点から、産学連携・知財戦略を策定可能な人材の層を厚くしたい。